

世界はデジタル・シチズンシップ教育へ

コモンセンス エデュケーション (米)	米ハーバード大の研究機関が開発。 ネット利用履歴やプライバシーに ついて学ぶ
チェッコロジ (米)	報道と広告の違い、フェイクニュース の見分け方などのオンライン教材
DQワールド (シンガポール)	ネットの潜在リスクなどを認識する DQ(デジタルインテリジェンス指数)を ゲーム形式でテスト

日本の保護者は 学校での「1人 1台」に慎重



(注)2020年、デジタルアーツ調べ。
小学校高学年、中学生の保護者

Review 記者から「使わせない」がリスク増幅

（DXエディター 杜師康佑、嶋崎雄太）

いまや10代の主な情報源はSNSであり、「なるべく使わせない」という教育はむしろリスクを増幅しかねない。法政大学の坂本旬教授は「情報を疑う訓練が十分ではない」と警鐘を鳴らす。

一方、日本の学校教育では、スマートフォンやゲームに依存することへの注意喚起が多い。デジタル・シチズンシップを教えるよりも、学習の妨げになるネットから遠ざけたいという意図がうかがえる。民間調査で保護者が「1人1台」のGIGAスクールに慎重なものも端末が「遊び道具になる」と懸念しているからだ。

「DQワールド」を手がける。デジタル・シチズンシップの潜在的リスクを教えるゲーム形式の「DQワールド」を手がける。一方、日本の学校教育では、スマートフォンやゲームに依存することへの注意喚起が多い。デジタル・シチズンシップを教えるよりも、学習の妨げになるネットから遠ざけたいという意図がうかがえる。民間調査で保護者が「1人1台」のGIGAスクールに慎重なものも端末が「遊び道具になる」と懸念しているからだ。

世界ではSNS（交流サイト）での公私の区別、フェイクニュースに振り回されないためのリテラシーといった「デジタル・シチズンシップ」の教育が盛んになっている。デジタル社会を生きる子どもたちに自律的なコミュニケーションや批判的な思考を教える。とりわけ米国はトランプ前政権下でネットを通じて陰謀論が広がり、社会の分断を招いた反省がある。デジタル・シチズンシップの教材も多い。米国の非営利組織、ニュース・リテラシー・プロジェクトの「チェッコロジ」では、SNS上の個人投稿に似せた広告の存在や、報道記事と記事スタイルの広告との見分け方などを学ぶ。シンガポールの研究組織、DQインスティテュートはネットの潜在的リスクを教えるゲーム形式の「DQワールド」を手がける。